郡市医師会だより

北見医師会

医療関連死・異状死フォーラム開催

北見医師会理事
北海道医報通信員　小野寺　栄　司

最近全国的に医療関連死、異状死に関するトラブルが多発しています。これらのトラブル防止のため全国的には死因究明と再発防止を目的とした『診療行為に関連した死亡の分析調査モデル事業』(モデル事業）が日本内科学会、厚生労働省の主導で平成17年9月より活動を始めております。しかし昨年2月に福島県で起こった県立大野病院の産婦人科医師逮捕・起訴事件は医療界に大きな衝撃をもたらし、医療界と警察機関の間での対立が深刻化してきております。昨年来北見医師会管内でも異状死に関して開業医・地域基幹病院・警察の三者の間で行き違い・トラブルが起こるようになってきました。会員からの声を受け止め、道医、警察、基幹病院とも協議、さらに当医師会理事会で検討した結果、各機関の間でそれぞれの立場の相互理解に欠けていることが原因の一つであるとの認識に達しました。そこで医療関連死・異状死について理解を深め、共通の認識に立ち対処できるように、そして最終的に医療が萎縮せず、トラブルが起こらず、地域住民に良質な医療が提供されることを目標としたフォーラムの開催が決定されました。

本フォーラムは北海道医師会の後援を受け、開業医、基幹病院勤務医、警察関係者、消防・救急救命士、保健福祉の行政関係者など総勢80名の参加を得て2月23日、午後6時30分より北見医師会講堂において開催されました。最初に北海道医師会・山本直也常任理事（医療安全部長）より最近の医療関連死をめぐる道内の情勢などに言及したご挨拶をいただき会が始まりました。

次いで古屋聖兒・北見医師会会長の座長で基調講演が開始され、1席目に北海道警察本部刑事部捜査第一課刑事調査官の安藤隆聰警視より『異状死と医療過誤』と題した講演を拝聴いたしました。安藤警視は医療過誤の法律的側面、過去の医療過誤事例の判例などについてお話しいただき、警察は届出を受けたら業務上過失致死傷を念頭に捜査しなければならない立場にあることを強調されておりました。最後に『警察は医療界の敵ではない』と話され結びとしておりました。

次いで松本博志札幌医科大学法医学講座教授の『医療関連死について－現状と今後』と題した講演をいただきました。先生の講演は1. 死因と死亡の種類、2. わが国における死者の取り扱い、3.「医療関連死」とは、4. 医療関連死の取り扱い、5. 今後の展望についてわかりやすいお話しをいただきました。医療関連死については医療事故と医療過誤は区別して考える必要あること、そして日本法医学会の『異状死ガイドライン』について解説していただきました。次いでモデル事業開始に至った経緯とその現状について説明、札幌地区では昨年10月1日よりモデル事業が開始されているが、いまだに対象症例が出てこない現状とのことでありました。医療関連死の英米との比較では、届け出ることが英米では日常茶飯事であり届け出た後の体制もしっかりとしており、医師にとって届け出ることが利益になるとのお話しでありました。しかし日本の現状は、届け出ることが原因究明・再発予防につながるのではなく犯罪捜査に直結す

ることとなり、今後の展望としては国土交通省の『航空・鉄道事故調査委員会』のような常設の第三者機関の設置・活動が望ましいとの提言をなされました。

次いで高橋謙之祐北見医師会副会長の司会でフォーラムに移りました。まず小野寺栄司北見医師会理事（おのでら医院長）が『開業医からみた異状死』と題して最近経験された異状死の症例呈示を行い、荒川穣二北見医師会理事（北見赤十字病院副院長）が北見医師会の医療関連死の届出についてのガイドライン案(第三者を入れた検討委員会を立ち上げ、24時間対応で相談に当たり届出の必要性を検討）についての説明がありました。その後安藤警視、松本教授、荒川医師、小野寺医師とフロアーの参加者も交わって活発な討論・意見交換が行われ、予定した時間を大幅に超過し、9時30分に会を終えました。

この会が各機関からの参加者の医療関連死・異状死についての認識を新たにし、円滑な医療提供に資するものになったと確信いたします。

上川郡中央医師会

勤務医部会開催

上川郡中央医師会
北海道医報通信員　水　野　清　司

上川郡中央医師会は3月1日旭川市内で平成18年度の勤務医部会総会を開催した。

上川郡中央医師会は、会員数29名の小さな医師会で昭和62年に勤務医の組織強化のため副会長を2人制とし、内1名は勤務医で、昭和62年に勤務医部会を設立している。

開業医と勤務医の数はほぼ半数で、総会、研修会等すべての会合が相互の交流の場となり、連携を密にして日常の医師会活動を行っている。

当日は椎名会長、藤本副会長、木下副会長と大方の勤務医が出席され、木下勤務医部会担当副会長の進行ではじまり、平成18年度北海道医師会勤務医部会全体会議に出席された時の報告説明があり、全国医師会勤務医部会の近況、また話題提供として「医療関連死の取扱いをめぐって―厚労省モデル事業の実施と問題点について」北海道医師会副会長加藤紘之先生の講演の概要の報告があった。

会議終了後の懇親会では最近の厳しい医療状況の中で「勤務医嫌い開業医」「地方の医師不足の実態」なども話題となり、当医師会では開業医と勤務医が地域住民に対して安全で質の高い医療を提供するため会員相互の連携を円滑にして地域医療の効率を図ることなどの熱心な議論も出て和気あいあいのうちに終了した。